

## 球場紹介

市川市少年野球連盟設立以前、市川市の少年野球は学校や地域子供会が中心となって活動していましたが、市内各地区の交流や相互の活性化そして指導者の研修を推進して正しい安全な野球を普及すること、更に大会運営の責任体制確立を望む声が高まって来ました。昭和55年、市川市少年野球連盟が設立されて、青少年健全育成のため組織的な少年野球の考えと体制がスタートしました。しかし、当時は子供たちが専用できる野球場がすくなく、連盟大会を運営する少年野球場の確保が大きな問題となりました。当時、青少年課に勤められた露崎功氏は10周年記念誌で、子供たちが安心して使用できる専用球場を確保しようと休耕地を探してその借用に奔走したものと語っておられます。妙典土地管理組合理事長の藤原さんを訪ねて、子供たちの野球場確保に苦慮している実情を説明し協力依頼をしたところ、「うちにも孫がいることだし、みなさんのためなら、できる限り応援します」と約束を得たそうです。藤原さんの言葉は私たちの気持ちを奮い立たせてくれる激励の言葉となりましたと記述されています。また、柏井少年広場は現在大小4つのグラウンドがあります。低学年の試合には最良の大きさです。その3, 4号グラウンドは元々栗林でした。その栗林を少年野球場にしたいと情熱を燃やしたのは篠崎義治氏でした。地主の川野辺さんに栗林を子供たちの野球場として使いたいと懇願し川野辺宅に通うこと一年、やっと承認をもらい栗林の開墾・整地そして防球ネットの設置を100余名のボランティアを組織して実施しました。そして市川市に借用契約を結んでいただき、それは見事な森に囲まれた素晴らしい野球場が出来上がりました。このように多くの先輩方が子供たちが安心して使用できる野球場のため情熱を傾けられました。

10周年記念誌で紹介されている野球場は「柏井少年広場、大野少年広場、北方少年広場、宮久保少年広場、東国分少年野球場、東国分少年広場、田尻少年広場、妙典少年広場、南行徳公園グラウンド、行徳橋下河川敷グラウンド、河川敷11号グラウンド」と記述されています。しかしながら、「大野少年広場、宮久保少年広場、東国分少年野球場、田尻少年広場」はなくなり、10周年記念誌に記述はありませんが、菅野5丁目少年広場も住宅に変わっています。10周年記念誌で紹介されている野球場の中で現存する少年広場、そして原木少年広場、大野4丁目少年広場、塩焼中央公園少年野球場、そして近年使用するようになった福栄スポーツ広場、青葉少年スポーツ広場を加えて本誌で紹介したいと思います。市川市の野球少年たちにとって大切でありかけがえのない「子供たちが安心して野球ができるグラウンド」です。

これらの少年野球場は先輩たちが不屈の情熱と努力で今の私たちに残してくれた宝物であります。無心に白球を追う子供たちのプレーには人の心を感動させる力があります。しかし、子供たちには野球場を確保する力はありません。この子供たちのため、今大人である私たちが素晴らしい少年野球場を残したいと思います。連盟設立時、先輩方が私たちにしてくれたように。